

平成20年度第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 平成20年12月20日(土) 午前10時～12時15分

2 開催場所 中央図書館1階第2集会室

3 出席者

(委員) 方波見委員長 坪井副委員長 谷口委員 奥村委員 田中委員 岩崎委員
小出委員 藤田委員 増田委員
(事務局) 森田館長 本多係長 長田係長 林主任司書

4 議題

(1) 前回会議内容の確認

(2) 報告事項

①平成20年度利用統計及び事業報告について(9月より11月)

②決算委員会の報告について

③元厚生省事務次官殺傷事件を理由とした、図書館における名簿類の提供制限状況について

(3) 協議事項

①図書館法改正(第7条関係)に伴う方策について

5 議事の概要

- ① 前回平成20年度第2回の図書館協議会の会議内容について議事録に基づき確認を行った。
- ② 決算委員会の報告について事務局より報告を行った
- ③ 元厚生省事務次官殺傷事件を理由とした、図書館における名簿類の提供制限状況について事務局より報告を行った。
- ④ 図書館法改正(第7条関係)に伴う方策について、今後の浦安市立図書館の取り組みについて協議した。

6 会議経過

前回平成20年度第2回図書館協議会の会議内容について議事録に基づき確認を行い、前回の議事録は承認された。また、今回より議事録の公開を早める意味からも委員長一任としたいとの意見がだされ承認された。

平成20年9月より11月までの利用統計及び事業について事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（質問）予約とリクエストの区別は

（回答）図書館によっては所蔵している資料についてを予約、未所蔵の資料についてをリクエストと区別して使うところもあるが、浦安では特に区別をしていない。

（意見）未提供の件数は出ていないようだが、そのことも図書館を評価する要素のひとつになると思う。

（質問）インターネットからの予約には流行りものが多いといった傾向があるか。

（回答）インターネット予約のうち42%ほどが貸出中の資料であり、この中にいわゆるベストセラーもの含まれている。

（質問）8割の人がインターネットを使ってリクエストをするということは、図書館利用の方向性も変わってくるのではないか。インターネットの発達する中で、図書館に足を運んでもらう従来のサービスに加え、新しいサービスの提供も考えてゆく必要があるのではないか。

（回答）図書館は今利便性という名のライバルにぶつかっているとはいえるが、けして来館者が減っているわけではない。本質的なものを確保しながら新しいしいものを取り入れている。現段階では利用のバランスも取れており、根本的な方向性の転換は必要が無いと考えている。

（質問）インターネットやマールの利用で、今まで図書館にこられなかった人が利用できるようになったこともあるのではないか。

（回答）実質利用率の3割にあまり変化無いので、急激に新規の利用が増えたともいえない。逆に言えばまだ7割の開拓の余地があり、課題として考えている。

10月30日開催された決算委員会における図書館に関する質疑について、図書館長より報告した。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（意見）費用対効果が強く出すぎると厳しい社会になってしまう。特に教育においては時間をかけて人を育ててゆくものであり、一年での費用対効果では計ることは難しい。

元厚生省事務次官殺傷事件を理由とした、図書館における名簿類の提供制限状況について事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（質問）厚生省関係の名簿類は市販されていたのか。

（回答）購入ルートが限られているものもあるが市販されていたものである。

（意見）出版社は個人情報の保護の観点から、近年は住所や電話番号を掲載し

なくなっている。過去の資料を提供するかどうかは図書館の問題であり、浦安図書館の判断適切である。

(意見) 電話帳を制限する図書館も出ていると聞くが、こうした制限が広がることを懸念する。図書館としては内部での話し合いを持ち、館長の判断の元に取り組んでもらいたい。ただ、保存を含め将来への資料提供の選択肢を残してゆくことを考えてもらいたい。

図書館法改正(第7条関係)に伴う方策について、今後の浦安市立図書館の取り組みについて協議した。

次回事務局より浦安市における図書館評価の項目、基準等の案を提示し審議することとなった。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(意見) ブランドマーケティングをやっていると、評価や、ニーズとして人の心をつかむ観点が重視される。そのなかで、インターネットではブランドイメージを掴むのが難しい。図書館は一人ひとりの人が作っているのであり、利用者との交流が無ければならない。

(質問) 評価は誰にしてもらうのか。

(回答) 自己評価が基本であるが、図書館協議会等の外部の意見を聞くことになる。

(意見) 豊中の事例は完全にマーケティング手法を使っている。顧客の満足度なども重要だが、何のために行うかを最初に決めて行うべきである。

(質問) 事例の6割程度はすでに評価をしているとの説明だが、どの辺の項目は実施していないのか。

(回答) 貸出しの部分では満足度について、また、当館では登録者数の累計を出していないことから実質貸出密度などが実施されていないが、計算すれば出るものもある。

(意見) 図書館のメールマガジンの発行をできないか、行事の案内や、興味のある分野の新刊案内などができないか。市民一人ひとりのライフスタイルに合わせたサービスとして価値がある。

また、小中学生向けのホームページの開設をしたらどうか。

(意見) パフォーマンス指標で図書館が何をしているかを説明することも必要である。最近従業員満足度というのも注目されている。量だけの基準ではなく質の面を考える必要がある。

(意見) インターネットが使えない市民も居るので、市の広報にコーナーを作るなど、コンスタントに広報を利用した情報発信を行えないか。

(回答) 広報も掲載情報数が多く、希望しても掲載されないこともある。郷土博物館がコーナーを作っているが、コーナー化せず、「こども」のコーナーに児童の行事を掲載することで、図書館に関心ない市民にも目

に付きやすいメリットもある。

(意見) 子供たちについては学校を通じて情報を流しているが、若い人たちに、たとえば成人式で案内のチラシを配ることなども考えたらよいと思う。

(回答) 検討中である。

7 傍聴者なし